

## 地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会(第24期・第5回)議事録

### 議事次第

1 日時: 平成30年12月26日(水) 14:00~16:05

2 会場: 東京大学地震研究所2号館2階第二会議室

出席者: 木村 学(委員長)、福田洋一(副委員長)、西 弘嗣(幹事)、中村 尚、伊藤 悟、大久保修平、大久保泰邦、大路樹生、大谷栄治、蒲生俊敬、北里 洋、氷見山幸夫、佃 栄吉、堀 利栄

WEB出席者: 藤井良一、小口 高、川口慎介、張 勁、西山忠男(幹事)、佐々木晶、関華奈子

欠席者: 高橋桂子、田近英一、春山成子、碓井照子、川幡穂高、久家慶子、小嶋 智、永原裕子、中村卓司、平田 直、山形俊男

### 3 議題等

#### 1. 第5期科学技術基本計画と中教審答申(2018/11/26)をめぐって

木村委員長より事前配布資料をもとに、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)についての概要について説明の後、今後の注視点等についての指摘がなされた。

#### 2. 地学・地理学初等中等教育検討小委員会報告

西小委員会委員長より、9月20日開催の小委員会での議論について、事前配布の議事録に沿って説明がなされた。

準備中の提言の構成としては、「防災」、「環境」、「資源」に関わる事物・現象への対応について、自然科学的な素養の育成の重要さとそれを目指した教育を如何に行うかに重点を置く。

これ以降15時40分まで、各WG、小委員会に分かれて審議を行った。それぞれの審議内容については末尾の議事録に記載。

### 全体会議再開後の議事

#### 3. 平成31年度アクション事項の確認、検討

議論の結果、今後の検討課題として以下が挙げられた。

- ・連携についての今後の具体的な方策として、単位互換の進め方、掘削その他のコンソーシアムを核とした取り組み、単位互換を含めた地質野外実習の共通開講等について、引き続き検討する。
- ・国際化について、留学生の受け入れのみならず、我が国の学生が外国に出ていくことも含め検討する。
- ・今後の教育の実質的な質保証をどのように行うかの検討

#### 4. その他

次回、分科会について、来年度(2019年)、地球惑星科学連合大会後の開催を予定。

### 【学術会議 地球惑星科学委員会 人材育成分科会 高等教育WG 議事録(案)】

日時: 平成30年12月26日(水) 14:20-15:40

出席者: 福田洋一(座長)、木村 学、中村 尚、伊藤 悟、大久保修平、大久保泰邦、大谷栄治、北里 洋、氷見山幸夫、佃 栄吉、堀 利栄

WEB出席者: 藤井良一、小口 高、川口慎介、川幡穂高、張 勁、西山忠男(幹事)、佐々木晶、関華奈子

### 審議事項

WGでは以下の二点について審議を行った。

1. 大学・大学院教育の連携推進について
2. 学科長専攻長アンケートの追加事項

1の教員連携のあり方(資料有)の一例として、

東大、京大、東北大等で構成する STEP10 の大学院教育の連携や、次世代火山研究者育成プログラム授業および、高知コアセンターが主体となって進めている地球惑星系の授業の互換についての紹介があり、大学における教育連携・単位互換について議論した。

北海道教育大や地方大学の事例紹介および大学における単位互換について各委員から発言があった。

今後は、地球惑星系分野の長所(研究分野の多様性が高い等)また地球惑星系分野は現在の状況(相次ぐ災害の発生)を踏まえながら、アウトプット(人材の育成目標)を定めて連携していくのが肝要との議論があった。また、工学系・生命系と異なる理学系の長所・短所の議論とともに、教育の国際化の視点も重要であるとの指摘があった。

2. 学科長専攻長アンケートの追加事項について(資料あり)は、

事務員の削減により研究・教育現場が窮しているとの発言があり、各大学における支援体制についての設問を追加することになった。

アンケートの文言については、座長に一任する。

**【学術会議 地球惑星科学委員会 人材育成分科会 地学・地理学初等中等教育検討小委員会議事録(案)】**

日時:平成 30 年 12 月 26 日(水)14:20-15:30

出席者:西 弘嗣(小委員会委員長)、伊藤悟、大路樹生、蒲生俊敬、北里 洋、氷見山幸夫

審議事項

提言のまとめ方に関して以下の議論があった。

- 1) 高大連携に関する問題は、今回の提言では残しておいた方がよい。
- 2) 第1章に確井先生にも加わっていただくようお願いすることになった。
- 3) 災害・防災教育の効果を上げるためには、副読本の作成を目指すのがよいとの意見があった。副読本は各地域に応じたテーマで作成するのがよい。
- 4) 第4章:社会における地学・地理のリテラシーに関しては、ジオパークや博物館に関する案件を含めて記述したほうがよいとの意見があった。
- 5) 地理が 2020 年から必修化されるが、それを教える自然地理の先生が足りないことが大きな問題としてあげられている。このような実施に関する点も提言に盛り込んだほうがよい。
- 6) 提言の作成に向かって役割分担を遂行することで一致した。